

つきものがたり
(十二月物語)



劇団仲間公演

1959-2022

木々は生きつゝいる



詩情溢れる舞台
美しい音楽

世界中の子どもたちの心をとらえ
大人の胸をうった感動の名作!

作/サムイル・マルシャーク
訳/湯浅 芳子 (岩波書店版)
演出/菊池 准 (演劇企画JOKO)

2022 アンバーホールクリスマスフェスタ 12月16日金 開演18:00 開場17:00

【会場】 アンバーホール (久慈市文化会館)

主催: 劇団仲間 後援: 久慈市教育委員会

 アンバーホール
AMBER HALL

 AFF2
ARTS for the future! ▶2

木は生きている

(十二月物語)



ふぶきにとざされた冬の森に咲いたマツユキ草
それは「四月の精」から、心やさしい「みなしご」への
とくべつな贈り物でした

1959年初演以来、2100回を超える上演回数で
全国の子どもから大人まで魅了した感動の名作。

ある大きな国に、わがままな女王様がいました。
ある年の大晦日、女王様が気まぐれにとんでもないお布令を出しました。
「新年までにマツユキ草を持ってきた者にはかごいっぱいのお金をあげます」
欲ばりな叔母さんとその娘は金貨欲しさに、真冬の森へみなしごの少女をやりました。
しかし今は冬。マツユキ草は四月に咲く花です。どこを探してもあるはずがありません。
少女はこごえ死にそうになりながら森をさまよいます。
その時、遠くに金色の光が見えました。それは“十二月の精たち”の焚き火でした。
十二月の精たちは大晦日の晩に集まって、年に一度のお祭りをするのです。
みなしごが心優しい少女だということを知っている十二月の精たちは、
困っているみなしごのために一時間だけ「春」をよびました。
みなしごがマツユキ草を摘んで家に帰ると、叔母さんとその娘はそのマツユキ草を持って、
女王様の所へ行きました。
すると、女王様は自分もマツユキ草を摘みに森へ行きたいと言い出したのです

CAST

みなしご	大和田 遥奈
叔母さん	安田 由美子
娘	堀越 ふみの
女王	白石 ゆうみ
女官長	浜谷 真理子
博士	小倉 輝一
王室の検事	鎌田 睦大
老兵士	前田 承生
おおかみ/お布れの将校	飛田 晃治
からす	二瓶 美江
りす1	青木 みくり (フリー)
りす2	松尾 美里 (株式会社プロースト 付属養成所子アース)
うさぎ	富山 早苗
一月の精/東の国の大使	更井 孝行
二月の精	関口 篤
三月の精/西の国の大使/鼓手	小川 拓郎 (東京芸術座)
四月の精/若い兵士/客人	町屋 圭祐 (劇団朝)
五月の精/東の国の大使夫人	大堀 茜
六月の精/西の国の大使夫人	覚田 すみれ (演劇企画JOKO)
七月の精/侍女	池田 舞
八月の精/客人夫人	小橋 美月 (演劇企画JOKO)
九月の精/警護隊長	内堀 創
十月の精/お布れの将校	田中 誠
十一月の精/総理大臣	小笠原 游大 (フリー)
十二月の精	小林 利也

STAFF

作/サムイル・マルシャーク
訳/湯浅 芳子 (岩波書店版)
演出/菊池 准 (演劇企画JOKO)
音楽/林 光
美術/松下 朗・内山 勉
照明/森脇 清治
効果/秦 和夫・富田 健治
振付/大原 晶子
衣裳/渡辺 園子
歌唱指導/飯田 裕之
舞台監督/村井 裕
チラシデザイン/三浦 佳子
制作/劇団仲間



2022 アンバーホールクリスマスフェスタ

12月16日(金) 開演 18:00 開場 17:00

【会場】アンバーホール (久慈市文化会館)

チケット料金 全席自由 ●一般 4,500円 ●ペア 8,000円

プレイガイド アンバーホールチケットセンター

お問合わせ先 久慈市文化会館 (アンバーホール)
TEL 0194-52-2700 FAX 0194-52-2730
HP <https://ahall.city.kuji.iwate.jp/>



【アクセス】

○乗用車 九戸(または軽米).ICから50分
○新幹線 二戸駅〜スワロー号(70分)〜久慈駅〜徒歩8分